

第521回IBC番組審議会

1. 開催日時 平成19年6月20日(水)
2. 開催場所 デジタルセンター3F Dホール
3. 委員の出席
- | | |
|---------|--|
| 委員数 | 11名 |
| 出席委員数 | 7名 |
| 出席委員の氏名 | |
| 委員長 | 吉沢 正則 |
| 委員 | 伊藤 史典 河村 泰信
熊谷志衣子 小松 務
米谷 春雄 宮澤 徳雄 |
| 欠席委員の氏名 | 澤口たまみ 高橋 健悦
田代 高章 矢佐 俊幸 |
- 会社側出席者
- | | |
|-------|---------------|
| 阿部 正樹 | 代表取締役社長 |
| 川島 敬司 | 常務取締役 |
| 菅野 秀樹 | 取締役テレビ営業局長 |
| 柴田 継家 | 報道局長 |
| 川上 隆 | ラジオセンター長 |
| 鎌田 英樹 | テレビ編成局長 |
| 関 芳樹 | 制作グループ ディレクター |
| 堀米道太郎 | 制作部ディレクター |
- 事務局
- | | |
|-------|------------|
| 馬場由紀子 | 番組審議会事務局長 |
| 小笠原 勉 | 番組審議会事務局次長 |
4. 議題
- テレビ番組「ふしぎのトビラ」
ラジオ番組「秘謡 氷口御祝を歌い継ぐ中学生たち」

5. 議事の概要

< 委員の主な発言 >

「ふしぎのトビラ」

- ・ふるさとに埋もれているものを発掘する役割、特に岩手であれば琥珀以外にも南部鉄器とか、自然科学を対象とするとリアス式海岸や、津波の科学のようなものもあると思う。そういう身近なものを取り上げて子供たちに科学に興味を持ってもらう場を提供する意味ではいい番組だった。
- ・実験は楽しいものなので、公開番組のような形で子供たちに参加してもらうことも、これからの番組作りの中で検討していただくと、視聴者参加型の番組になっていくのではないか。
- ・子供向けの番組なのか、大人も一緒に見て楽しむ番組なのか、分かりにくい番組だった。
- ・司会の二人のキャラクターも良く、子供たちとの会話のキャッチボールも楽しく見ることができた。

「秘謡 氷口御祝を唄い継ぐ中学生たち」

- ・初めて聴き、唄の内容はよく分かりませでしたが、メロディーにびっくりしました。伝えたい文化があっても、後継者の問題などで悩みを抱える地域にヒントを与えてくれた。
- ・家庭では教えられない教育であり、地元の人たちが誇りを持っている様子や、地域の絆が伝わり感銘を受けた。
- ・なぜ同時に始まって同時に終わるのか、こういう形式にこだわっているのか、民俗学的、音楽史的な観点からも興味があります。
- ・水の音やナレーションが心地よく、イメージが膨らむラジオの良さがでていた良い番組でした。
- ・一つの地域芸能を継承させていくことは、本当に大事なことで小友の方々には敬意を表したい。県内には、後世に残したい伝統文化がたくさんあると思うので、どんどん取り上げていって欲しい。
- ・校長先生の「生徒は地域の皆さんが育ててくれる」音楽の先生の「子供たちが素晴らしいと思うから伝えられる」という話に感銘を受けた。

< 社側 >

「ふしぎのトビラ」

- ・この番組自体が小学生が対象で、小学生に科学する心を小さい頃から持ってもらいたい。番組のコンセプトはそこにあり、字幕などについてもかなり細かくルビ等が入っています。
- ・広く自然科学もサイエンスとしてとらえ、小学生の学習範囲でいうと理科で、理科の教科書にあるような内容については広く取り上げていきたい。

「秘謡 氷口御祝を唄い継ぐ中学生たち」

- ・岩手県内にも祝い唄はたくさんあります。どういうわけか、男衆と女衆が分かれて同時に唄い始めて同時に終わる、というスタイルはまずない。最初、星さんから「面白い唄があるんだよね」という話を聞いて、ずっと気になっていました。そして保存会のおじいさんから「今、中学生に教えているんだよね」と聞いて、えっと思いました。テーマは発掘と伝承の二つに絞れたので、非常にシンプルです。もともとは録音風物詩という10分番組のために取材を始めました。取材する内に10分ではもったいないと思い、スペシャル番組に仕上げました。